

街路樹診断士認定講習テキスト改訂特別委員会について

街路樹診断士認定講習テキスト改訂特別委員長 有賀一郎

はじめに

新緑の美しい季節になりました。しかし地球温暖化やヒートアイランドの影響で、都市樹木の春の開花が異常に早まっています。私は28年前、2年間都市樹木の花ごよみ(開花日記)をつけていたので、よくわかります。大変なことが起きていると考えていました。

こんな季節の4月16日、神奈川県のカンパ場で倒木があり、テントをつぶし、2名の方が死傷するという痛ましい事故が報道され、ビデオ記録するなど注目していました。翌朝、神奈川県警から依頼があり、神奈川県の樹木医数人でその日の午後駆け付け、診断書(鑑定書)を2週間ほどかけて作成しました。街路樹ではありませんが、街路樹診断で得てきたリスクマネジメントの知見でとりまとめたことは言うまでもありません。しかし命と責任にかかわる書類づくりで、身が引き締まる思いでした。



「街路樹診断士認定講習テキスト改訂特別委員会」の設置

現在使用中の、平成28年発行「新版・街路樹診断士認定講習テキスト」は、東京都のマニュアルが「令和3年度街路樹診断等マニュアル」に変更されたこと、発行から7年を経たこと、またこのように命と責任にかかわる街路樹診断士の「資格認定の厳格化」を推進していることなどから、改訂が必要になりました。そこで「街路樹診断士認定講習テキスト改訂特別委員会」を立ち上げ、改訂を進めることとなりました。

「テキスト」は「街路樹診断士認定委員会」で実施するオンラインと実地の講習や試験で使用されるものですが、「街路樹診断協会」の顔になる大切なものですから、「テキスト」の改訂は、街路樹診断協会全体で行うべきと考え、委員構成は以下のように各委員会の中心メンバーを配置しました。

<街路樹診断士認定講習テキスト改訂特別委員会構成員>

- ・委員長：有賀一郎街路樹診断士認定委員長
- ・委員：野上一志事業委員長、石井匡志技術委員長、萱森雄一郎広報委員長、
坂元博明診断士認定委員(関東)、三宮洋診断士認定委員(九州)、水野優診断士認定委員(関西)、
大島渡本部事務局、中村靖子本部事務局
- ・顧問：笠松滋久副会長、山下得男副会長
- ・テキスト改訂事務局：青空計画研究所(山口康予事務局、田中万里事務局)
- ・協力：多田亨(有限会社緑汎)

街路樹診断士認定講習テキスト改訂特別委員会の役割と工程

「街路樹診断士認定講習テキスト改訂特別委員会」の役割は、令和5年7月の街路樹診断士新規認定試験に向けて、テキスト改訂の方向性・目次構成・章の増減など、基本的なことを決定し、執筆者に依頼し、その成果を承認することです。執筆者・講師は、原則として、平成28年と同じ(一部追加・交代あり)としましたが、「テキスト」と「オンラインの動画」を作成するため、以下のとおり、相当に厳しい工程です。

- ・ 総会前理事会(令和4年10月24日)にて「街路樹診断士認定講習テキスト改訂特別委員会」設立を承認。
- ・ 第1回テキスト改訂特別委員会を開催、基本的な方向性を確認(令和4年11月15日)。
その後執筆者に依頼(12月中)。執筆者より提出(令和5年1月初め)。
- ・ 第2回テキスト改訂特別委員会を開催(1月25日)。提出されたテキストのチェック。
- ・ 第3回テキスト改訂特別委員会を開催(3月13日)。修正されたテキスト・動画の原稿をチェック。
- ・ 第4回テキスト改訂特別委員会を開催(4月18日)。再修正されたテキスト・動画の原稿をチェック。
- ・ テキスト印刷原稿完成、動画原稿完成(5月10日)。テキスト印刷製本完成(6月30日)。

改訂したテキストの名称は「街路樹診断士認定講習テキスト第3版」です。

<街路樹診断士認定講習テキスト第3版 執筆者・講師(講義順)>

- ・ 笠松滋久・細野哲央・大野集・永石憲道・有賀一郎・大島渡・山下得男・神田多・美濃又哲男・小林明・當内匡

テキストの改訂は、すでに佳境に入っていますが、何とか先が見えてきた状況です。このニュースが皆様に届くころには完成していると思います。街路樹診断士認定講習テキスト改訂特別委員会及びテキスト執筆者の皆様、本当にありがとうございました。会員の皆様におかれましても、街路樹診断士新規認定・更新認定の講習において、テキストは使用されますので、よろしく願いいたします。



「街路樹診断士認定講習テキスト 第3版」の表紙(予定)

写真は、中之島公園(大阪府大阪市) 協会員による「各地のアーバンフォレスト写真コンテスト2022年」入賞作品

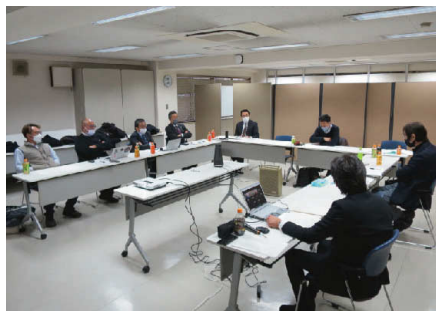
◆◆◆ 25周年記念誌企画 座談会 概要 ◆◆◆

第3回「街路樹診断協会のあゆみ」(発展期:法人化以降)

当協会が今年(2023年)設立25周年を迎えるにあたり、25周年記念誌の発行を予定しています。協会の歩みを振り返り、記録に残すため座談会を開催してきました。最終回となる第3回座談会が2023年1月23日(月)に行われ、2009年11月に法人化以降の約15年間について語っていただきましたので、概要をお知らせします。

〔出席者〕 山下得男、有賀 一郎、當内 匡、野上 一志、石井 匡志、藤原 圭介、三宮 洋、関根 武、河野 友和、永石 憲道、大島 渡、上杉 哲郎

〔司会進行〕 笠松 滋久



◆◆ 業界、学界の変化、動向 ◆◆

東日本大震災(2011年)後、政府や自治体の予算配分は震災復興に重きが置かれ、造園業界では新設の公共事業は減少した一方で、新たな流れとして、既存の都市公園などの再整備、長寿命化、維持管理、保守点検の時代になっていきました。2006年以降、指定管理者制度が広まり特に都市公園については植物管理だけでなく総合的な運営が求められ、プレゼンテーションが受注を左右するなど、本業以外の新たなスキルも必要になってきました。これによって、各社が自社の技術、状況に応じた業務を求めて行動するようになりました。

社会が少子高齢化に向かう中、特に地方の自治体の予算は厳しく、街路樹剪定の回数は減り、ぶつ切り剪定などで樹形崩壊や樹勢衰退が起り、また伐採後更新がされないなど、街路樹の維持管理は難しい状況になっていきますが、維持管理、保守点検が重視される中で、すでに始まっていた東京都の街路樹診断事業による街路樹診断は計画的に発注されました。

2012年に樹木医CPD(造園CPDはそれ以前から)がスタートし、新型コロナウイルス感染症が流行したこの2,3年は活発にオンライン講座が行われ、当協会もオンライン研修を開始しています。大学組織の改編が行われ、自然科学系の学部の統廃合があり総合学部的な中に自然科学系が入り、樹木医、街路樹、都市行政を研究領域とする研究室も置かれるなどして、研究者の裾野の広がり、世代交代も徐々に進んでいます。また、ウェビナーで全国さまざまな地域から、いろいろな先生方から発信されるようになっていきます。日本造園学会にも街路樹研究推進委員会が立ち上がりました。しかし、街路樹診断士が欲しい技術情報の研究は不足しており、協会自ら、技術委員会が「切断された根系直径と発根量の関係および太根切断箇所の処置方法に関する研究」の試験に着手しました。研究テーマに予算を付けて若い研究者に取り組んでもらうことも今後の課題として考えられます。

◆◆ 法人化 ◆◆

法人化の目的の一つに街路樹診断士制度をスタートすることが掲げられており、法人化で協会の社会的な認知が高まったことは資格制度を担保するものとなりました。資格制度を一から作るのは大変なことで、事務局が大きな使命感をもって取り組んだことで、街路樹診断士制度をスタートさせることができました。現在、街路樹診断士認定委員会ができ、資格制度の運用方法を改善しながら認定を行っています。

法人化で自治体から信用を得ることができました。この信用をベースに東京都のマニュアルの改訂を2回行っています。2013年(平成25年)にマニュアルづくりを東京都から受注し、続けて平成26年度版のマニュアル、そして令和3年度のマニュアルの改訂も請け負っています。東京都のマニュアルは全国に対しての波及効果が大きく、2回目のマニュアル改訂は入札案件でしたが、協会として必ず受注につなげるという姿勢で行いました。

法人化したことで、会計管理事務は大変になりました。法律にのっとり会計基準に合った会計処理をすることになり、固定費もかかってくる。そのため費用の切詰めが必要で、会員は手弁当で協会活動・運営に携わり、シンポジウムのお金を貯めたりという苦労もありました。特に、マニュアル改訂(平成26年度版、令和3年度版)や国際シンポジウムなど重要な案件やイベントがあると、日常の会社業務を行いながら診断協会の事務をこなすという状況になり大変厳しい毎日が続きました。国際シンポジウムには力を入れました。2008年の樹木の管理とリスクマネジメントでは海外からスマイリー博士、ウィテック氏、ハン氏の3人を講師に招きました。そして2009年、総会設立のボンド博士の講演会。慣れない支払い、会場のことなどを検討しながら対応し、その経験を活かして2019年の国際シンポジウム世界のアーバンフォレスト政策と樹木のマネジメントに取り組み、各委員会が役割分担して運営しました。

◆◆ 街路樹診断士制度 ◆◆

樹木医や樹木医を擁する会社が増えた結果、街路樹診断業務の受注競争が激化し、低価格化が起きました。診断技術を開発し研鑽してきた街路樹診断協会員が街路樹診断業務になかなか参画できない事態になる一方で、未経験未熟な樹木医による街路樹診断の内容には問題があり、街路樹診断の品質が問われることも顕在化したということを忘れてはいけません。このことも一つの教訓として、リスクマネジメントとしての街路樹診断は人と樹木の命を預かる業務であり、倫理も技術論と同様極めて大切な事項であることを認識しました。

樹木に発生する危険を事前に予知し、的確に危険を除くための診断を行う専門家である街路樹診断士は、正確で誠意ある診断を行い、街路樹の管理者から信頼を得ることが重要で、品位を保ち、倫理面も踏まえて診断内容の品質保証をするのが街路樹診断士制度です。

街路樹診断士は東京都ではかなり認知度は上がっており、仕様書にも記載されていますが、他府県ではまだ認知されていないのが現状で、街路樹診断の発注量によるものと感じます。東京都では発注量が多いですが、求める質が担保できないことを認識して、資格要件として街路樹診断士が入れられました。発注量が少ないところは樹木医、街路樹診断士を区別する必要がなく、特に地方では、倫理規定を順守して仕事を行う街路樹診断士は価値はあるが、それほどのものでなくてもいいというのが実態と思われます。

しかし、技術者として研鑽するためには、街路樹診断士の資格を取り、資格を更新していくという姿勢が非常に重要。それをもっとアピールしていきたいと思います。

◆◆ 各支部の研修会 ◆◆

支部で積極的に研修会を行っています。

関西支部ではNPO法人「おおさか緑と樹木の診断協会」との共催で、2012年から街路樹研修会を8回行っ

ています。自治体の方々に適正な樹木診断や管理方法を知っていただくことが大きな目標で、毎回150～200人の参加があります。大阪府下の自治体には診断業務の認知度の高まりと街路樹診断協会を認識してもらうベースはできてきたと思いますが、それが業務としてしっかり根付いたかという点、その効果を生み出すまでにはまだ至っていません。もう一步進んで、次の段階としては、品質の問題をしっかりと伝えることだと思います。

九州支部は年2回、主に発注者向けの研修会と会員向けの研修会を行っています。発注者向けは各県で持ち回り開催しています。

◆◆ 診断機器、診断技術の変遷 ◆◆

レジストグラフはRESI-PD型になり扱いが楽になりました。診断機器は音響波、弾性波、半破壊、非破壊など種類が多様になり、所有する会社も台数も増えてきています。2012年に根株診断がスタートしましたが、2008年から2010年頃、製造元のIML社とやり取りをして、GPSを搭載してとか、もっと簡単なソフトにしてとか、壊れにくくしてなど、いろいろ要望を出したことがあり、角度計が付きました。パーツごと丸ごと交換できるようユニット化を要望し実現しましたがRESIの値段が上げられてしまいました。

東京都にはこれまでの診断で、いろいろなデータが相当あります。カルテの中にもいろいろなヒントがあると思うので、それらをもっと見える化することは必要ではないかと思っています。

マニュアル改訂とともに各種機器の試験もしましたが、実際に切り倒し断面を見られる機会は非常に少ないです。伐採時に立ち合わせてもらい検証を重ねていきたいというのは、一種のジレンマになっています。

保護技術として、海外から入ってきたものもあります。ブレーシングの一段階前の枝の保持装置“コブラ”もそれで、平成26年度マニュアルを策定するときには、実際に設置して新しい技術として紹介しています。

2009年には“ぼん太”の開発を支援しています。島根県の技術者(職員)の陶山さんが、簡単で単純な機材による測定結果を学会で発表していたことに関心をもち、街路樹でも測ってみたいと連絡、陶山さんはその機材を持って東京へ来られた。もう少し改良を加えれば実用化できるのではという感触でした。島根県では、開発予算がつき開発会社(ワールド測量設計)もみつかったので、実際に運用できる機器とするために助言をしてほしいということになりました。そうしたつながりで販売にも協力し、さらに、開発の補助を受注して解析を行ったということもありました。“ぼん太”はバージョンが変わり、どんどん良くなってきています。

診断の作業で変わったのは、紙ベースで外観診断をやっていたのが、最近はタブレットを使用する会社が増えてきたことです。会員の中にはクラウドでデータを効率的に管理する街路樹診断システムを開発し、利用する会社も増えています。

◆◆ 国際シンポジウム(2019年) ◆◆

2019年の国際シンポジウムはスマイリー博士とシアーズ氏を招いてのビッグイベントでした。協会のビジョンに影響を与えたシンポジウムで、成果があったと思います。

テーマを決めることは結構大変で、何回か会議をしていました。やはり次の時代、次のステージを先取りしたものにならないといけないということで、アーバンフォレストを採用しました。国際シンポジウム成功の鍵はアーバンフォレストでした。

シンポジウムによって新しい考えが盛り込まれました。それまで診断業務をすることが街路樹診断協会の使命でしたが、“都市樹木、アーバンフォレストをしっかりと育成していく”というところに視点が変わりました。

初めて福岡でも開催し、アーバンフォレストスターズによるウェルカムメッセージがありました。松本さんから最近の話として、今期樹木医に合格した福岡市内の造園会社社員は、国際シンポジウムに参加し、深く感銘を受けたことが樹木医を目指すきっかけになったということです。



◆◆ 国際シンポジウムを経て、今後の課題 ◆◆

今東京で起きている問題は、10年後、20年後に地方都市でも必ず生じる問題です。街路樹の歴史をみれば、後から地方都市が大都市と同じ問題を抱えていきます。アーバンフォレストをキーワードとして今、地方都市に積極的に営業をかけていくことも大事なことだと思います。

今、診断が街路樹から公園に広がってきています。国際シンポジウムでスマイリー博士に紹介いただいた、二つのマトリクスを用いて場所と損害の大きさを考慮して評価するISAリスクアセスメントの手法は今後取り入れていくべき課題であると思います。

■被害につながる損壊の可能性を算出するマトリクス

損壊の可能性	人や物が傷つく可能性			
	大変低い	低い	中程度	高い
すぐに起きうる	予想されない	多少予想される	予想される	大いに予想される
起きそうである	予想されない	予想されない	多少予想される	予想される
起こりうる	予想されない	予想されない	予想されない	多少予想される
起きそうにない	予想されない	予想されない	予想されない	予想されない

■被害につながる損壊の可能性と被害の大きさを掛け合わせて、リスク評価を行うマトリクス

損壊・損害の可能性	損害の大きさ			
	些細	小さい	重大	悲惨
大いに予想される	低リスク	中リスク	高リスク	超高リスク
予想される	低リスク	中リスク	高リスク	高リスク
多少予想される	低リスク	低リスク	中リスク	中リスク
予想されない	低リスク	低リスク	低リスク	低リスク

International Society of Arboriculture (2017) Tree Risk Assessment Manual Second Edition.

アーバンフォレストをつくっていくことに関して、i-Treeの話も出てきています。i-Treeにデータを入れるためにも、樹木台帳を整備する必要があります。今アメリカでも行われているように、樹冠被覆率などの緑の量と質の把握がこれからは大事になってきます。

東京都もマニュアル改訂と同時に街路樹のデータベースづくりに取り組み始めています。

◆◆ 東京2020夏季オリンピック、樹冠最大化 ◆◆

1964年の東京オリンピックは分離発注で造園、建設土木、それぞれ分けて発注されていましたが、今回は、スタジアム建設などはゼネコン一括発注で造園業界にはあまりメリットはありませんでした。

しかし、街路樹の樹冠最大化という問題がマラソンコースで提起されたことは、成果だったと思います。東京都は令和3年に樹冠最大化の考察に基づいての維持管理計画書を公表していますので、その部分は良い種を蒔いてくれたと思っています。東京から遅れて地方にも同じ課題が出てきます。東京で行ったことがそこでも生きてくると思います。

◆◆ アーバンフォレストとアーバンツリー ◆◆

アーバンフォレストを協会の新たなテーマとしました。2018年、當内さんが日本造園建設業協会の派遣で国際園芸家協会(AIPH)の会議のためにオーストラリア・メルボルン市に行きました。その時にアーバンフォレスト戦略を初めて知り感銘をうけ、笠松さんに伝えたところ、ぜひ講師をメルボルン市から招きたいという話となり、AIPHを通してグリーンインフラ・アーバンフォレスト部長のイアン・シアーズ氏を紹介していただき、招待が実現しました。

アーバンフォレストという言葉が日本で知る人はほとんどいませんでした。アーバンフォレストで検索すると、神戸大学農学研究科の論文が一つだけ見つかりましたが樹種の多様性が中心に述べられ、今話題となっている樹冠被覆率や緑の価値評価手法などについては触れられていませんでした。今協会が発信しようとしているアーバンフォレストについての発信、推進は当時なかったと思います。もしアーバンフォレストが日本で広がっていったとしたら、街路樹診断協会の活動が大きかったということになります。

街路樹診断協会の英名の名付け親は有賀さんです。“Urban Tree Diagnosis Association, Japan”は、マテック博士が日本にいらっしゃるのでも英名がなくてとは話し合っていた時に、英語教師をしていた有賀夫人からピタリとくる言葉として”Urban Tree(アーバンツリー)”というアイデアを得て、それに賛同して決まりました。アーバンフォレストについての考えはまだない時代でしたが、アーバンフォレストの構成の一部がアーバンツリーで、アーバンツリーの集合体がアーバンフォレストだというような理解になっていることも後でわかりました。

都市樹木は山ではなく人の周りで暮らしている樹木です。自然な本来の生育環境ではなく攪乱された土壌、人工的で過酷な環境の都市に生育する樹木です。都市樹木は街路樹、広場樹、庭園樹、公園樹などであり、人の生活に不可欠な存在でありながら、あまり健全な状態ではないことが多い。都市樹木は都市環境と密接な関係にあり、街路樹は都市樹木の代表です。街路樹診断は街路樹だけではなく都市樹木全般を診断する技術の基になるものです。

◆◆ アーバンフォレストをめぐる海外の潮流 ◆◆

国際シンポジウムの前年(2018年)に、アメリカのオハイオで開催されたISAカンファレンスに参加した當内さんは、アーバンフォレストについて、いろいろな方が大きく取り上げている世界の状況を目の当たりにし、大きな衝撃を受けました。ISAには、実際に公共の緑化を担当して樹木に関わる人、アーバンフォレスト計画を立てている人が多くいます。今回(2022年)のISAカンファレンスはスウェーデンのマルメ市で開催されました。ヨーロッパでは気候変動による樹種の適応性などに真剣に向き合い様々な調査がされ、ウクライナ戦争によるエネルギー問題の深刻さが増し、ナチュラルベースドソリューションとして、アーバンフォレストの考え方がさらに進んでいるとのこと。スマイリー博士は、都市であっても根系の広がる量がある程度確保されていないと樹木の健全性が確保されないということをおっしゃっていました。例

例えばスイスのチューリッヒ市は、植栽基盤の面積が数年前までは9m²ぐらいでしたが、それが今目標としてストラクチャルソイルを用いて36m³という、大きな植栽基盤に拡大することを目指しています。

ISAは都市樹木、アーボリカルチャーに関わる分野の調査研究開発を積極的に推進している団体です。街路樹診断協会や造園関係者が関わっている領域にとっても近いです。ISAのミッションには、研究開発だけではなく専門的な実務をプロモートすることもあります。ISAは「ベストマネジメントプラクティス」という標準書、解説書を継続的に改訂しています。品質や専門的な実務のスタンダードを明確化して、発展させ促進して保持するということを活動の目的、方針の中に位置づけています。そうした部分を協会も学んでいかなければいけないと思います。

樹木管理に関わること全て、樹種選定から工事における保護対策、植栽のこと、樹木業務に関わるスタンダードをきちんと明確化して専門業界が協力し協同し、それを業界のスタンダードとしていくようなことが今後必要ではないかと思っています。

◆◆ 台湾との関係 ◆◆

台湾の大安森林公園之友基金會に協会の賛助会委員となっただいただいています。そしてシンポジウム、技術研修など交流を重ねており、今後も、大事にしていきたいと思っています。



「シンポジウム2023 日台都市樹木管理技術検討会」に招かれ参加(6月1日)。
前日は台北市公園管理事務所意見交換会を行った。

南国の山菜

樋口 純一郎 (九州支部/株式会社トロピカル・グリーン設計)

沖縄には本土と違う植物たちが多く生育しています。そのような中、ガチマヤー（沖縄方言：食いしん坊）の私は、毒がない色んな植物の新芽をてんぷらやおひたしにして食べました。するとたくさんの美味しい植物を発見したのです。沖縄には本土のように山菜をめぐる風習や文化がありません。そこで15年ぐらい前から「山菜ご賞味ツアー」を開催し、広く県民の方々に山菜の美味しさを発信しています。参加された方々からは、「植物を見る目が変わった」とか「身の回りにはこんなにも美味しい植物がたくさんあったのか」と絶賛の声をいただいています。しまいには「ヤンバルの森の山菜たち」という冊子まで作って皆さんに販売しています。

参加されたご家族では特に子どもたちが山菜摘みに興味をもち、普段おうちではお手伝いしない子どもが料理をするときに一生懸命手伝ってくれたり、野菜嫌いな子どもがバンナイ（方言：たくさん）山菜料理を食べたりと、親をシニ（方言：非常に）びっくりさせます。

また、自然の中で何が食べられるかを知っているということは、いざ災害に直面したときに生き抜いていくすべとして大いに役立つものと思います。参加者で戦争中ヤンバルに避難した人の中には、ヒカゲヘゴの新芽を食べて飢えをしのいで生き延びることができたと言っている方もいらっしゃいます。

樹木医そして街路樹診断士は常に様々な植物の特性を見て、あらゆる角度から植物を知るということも大事な姿勢であると思います。



コケの美

堀内 大樹 (関西支部/株式会社八景)

私は随分以前からコケの魅力に取り付かれていて、普段仕事をしている現場でも常に地面の状況やコケが自然発生しているところに目が行ってしまいます。コケ好きマニアも多くいて、ある観察会などでは、集合場所の駐車場で地面に発生しているコケをしゃがみこんだまま観察し、ブツブツ言いながら長時間動かないというような異様な光景をつくることもありました。

しかしどうしてコケはこんなにひとの心を惹きつけるのだろう。古木に見とれるのと同様にコケを眺めていると時間を忘れてしまう感覚になります。コケの緑色は様々な色に変化しますが、それはコケの葉はほとんどの種で一層の細胞層から成っており、



中庭

光の反射の仕方が複雑だからだと思います。

それならば身近に自分の生活の近くにコケを育てて鑑賞するのがいいと思うが、これがなかなか難しい。どうしても我々は、先入観でコケを草花や芝生のように扱ってしまい、コケの生活環を蔑ろにしてしまうからでしょうね。

私はコケが生育できる空間と思った場合、ここぞとばかりにコケ空間を提案します。前ページの写真は、昨年の5月にコケを植えた現在の中庭です。そこには昨年よりも成長したコケの姿がありました。



撒きゴケで育つ

ここでは貼りゴケをしましたが、別の場所では撒きゴケという手法を取りました。それはコケの無生芽で栄養生殖をおこなうという特性を利用したもので、完成に時間がかかりますが、コストを抑えることができます。いずれにしろコケは時間を重ねてつくられるプロセスに価値があるのでしょうか。

マイブーム

額谷 悠夏 (関東支部/株式会社 富士植木)

「樹木」について時々マイブームがきます。

高校生の時に、「ブナ」にハマりました。漢字で「木の無し=櫛」と書くのは材木には適さない樹木が由来とされていますが、樹冠の広がりや展葉の美しさに魅了されて、わざわざ旅行でブナを見に行くこともありました。

大学に入ると、水分生理学に夢中になりました。光合成と蒸発によって水ポテンシャルの値が変わるという仕組みが大変面白く、水分生理学をテーマにしました。

大学院では、東京生まれということもあり、山の樹木より身近な街路樹に興味をもちました。山と街



で樹木の求められる機能が異なりますが、街路樹はより「人間の生活」に左右されることを研究を通して目の当たりにしました。

入社後に業務で根系調査の仕事に携わることになり、根系を見るのがブームになりました。エアースコップで掘っていくと、全く見えなかった根系の様子が見られることにわくわくしていました。根鉢は英語で「rootball」と言われますが、確かに根が渦巻いている様子はballです。樹種によって根系は異なりますが、街路樹の根系を見るとほとんどがball状になっているものが多く、これで水分・養分を吸収して、排気ガスにまみれながら光合成をしていると思うと「樹木」に頭が下がります。

街路樹が「樹木」としていきいきと育つ環境になるよう、そろそろ次のマイブームを探そうと思います。

各委員会の活動報告 (2023年1月～6月)

事業委員会

委員長：野上一志 副委員長：當内匡、吉岡威
委員：宇田川健太郎、本山圭一郎、安田卓宏

事業委員会では、定例会議を月に一度オンラインにて開催しており、年度事業計画の各項目について担当別に遂行しながら、全体協議が必要な事項は方向性の確認と調整を行っております。

4月28日には、アーバンフォレストの優良事例を実際に歩いて見学することで、その魅力の理由や保全の必要性について再認識するとともに、街路樹診断・維持管理等について自由な意見交換の場とすることを目的に見学会を初開催しました。オンラインを含め20名の参加があり、アンケートの結果も大変好評であったことから、場所を変えて次回開催も検討したいと思います。

また、7月8日には、i-Tree Ecoのハウツー講座として、シリーズ「アーバンフォレストを掘り下げるwebセミナー#5」の開催も予定しておりますので、多くの会員のご参加をお待ちしております。

〔活動内容〕

- 1月13日(金) 第5回事業委員会(オンライン開催)
- 2月16日(木) 第6回事業委員会(オンライン開催)
- 3月16日(木) 第7回事業委員会(オンライン開催)
- 4月19日(水) 第8回事業委員会(オンライン開催)
- 4月28日(金) アーバンフォレスト優良事例見学会(一般都道多摩御陵線及び周辺緑地)
- 5月15日(月) 第9回事業委員会(オンライン開催)

技術委員会

委員長：石井匡志 副委員長：高村聡
委員：小島和夫、高田恵一、服部雅樹、堀内大樹

技術委員会では、オンラインによる委員会の実施と現場における根系調査を行いました。根系調査では「切断された根系直径と発根量の関係および切断箇所の処置方法」について、昨年5月に富士植木様長浦圃場にて開始した調査区から新しいデータを収集し、現在整理中です。さらに、関西方面でみられる真砂土におけるデータを得るために古川庭樹園様の協力により富田林近郊の圃場にて新しい実験を開始しました。

また、貫入抵抗測定器(RESI)の使い方に関する動画の作成について最終段階の検討も実施しました。

今後は、地方自治体を意識した街路樹診断マニュアルの作成や考え方についての検討を進める予定としています。

〔活動内容〕

- 1月10日(火)～11日(水) 根の切断面の処理に関する根系調査(協力:富士植木・長浦圃場)
- 1月18日(水) 技術委員会(オンライン)
- 2月21日(火) 技術委員会(オンライン)
- 4月 4日(火) 技術委員会(オンライン)
- 4月10日(月)～11日(火) 根の切断面の処理に関する根系調査(協力:古川庭樹園・富田林圃場)
- 4月24日(月) 技術委員会(オンライン)
- 5月16日(火) 技術委員会(オンライン)
- 6月中旬 技術委員会(オンライン)

広報委員会

委員長：萱森 雄一郎 副委員長：笠松 滋久
委員：向山 直宏、伊東 麗子、石田 浩之

アーバンフォレストの推進にあたり、各委員会では活発な動きが展開されています。広報委員会では、その概念をよりわかりやすく表現するため、「関さんの森」の動画をホームページに公開しました。ユーザー数・アクセス数ともに堅調に推移しています。

25周年記念誌では、各コンテンツの編集に着手しており、引き続き会員の皆様のご協力をいただきながら進めていきます。協会のあゆみを振り返る座談会は最終章となり、あらためて協会の技術や結束を共有できました。

ESG(環境・社会・ガバナンス)投資の分野においては、「緑・景観の形成」が、14の社会課題の中に含まれ、街路樹を含む都市樹木への関心度が益々高まってきており、継続して診断技術の取り組みを発信していきます。

〔委員会・活動〕

- ・ 定例会開催：全5回(2/8、3/7、4/11、5/16、6/13)
- ・ 会報(GAISHIN NEWS)の発行：第14号(1/15)
- ・ 「街路樹診断協会のあゆみ」第3回座談会開催(1/23)
- ・ 各所への販促を兼ねた動画掲載企画：大阪・堺市けやき通りの撮影は全4回を完了、堺市と対談(4/13)
- ・ 25周年記念誌継続編集(各コンテンツの整理)

街路樹診断士認定委員会

委員長：有賀 一郎 副委員長：山下 得男
委員：坂元 博明、三宮 洋、水野 優

コロナ禍や電子化など社会情勢の変化の中、街路樹診断士新規認定講習・試験および更新認定講習・試験も、「オンライン研修サイト(診断士認定)」を活用して行うようになりました。一方、現場集合の新規認定実地講習・実地試験は、三密を避け各支部にて分散開催にいたしました。オンライン化や分散化しましたが、講習では、平成28年発行「新版・街路樹診断士認定講習テキスト」を使用しています。

また、平成28年発行「新版・街路樹診断士認定講習テキスト」の改訂は、街路樹診断協会内に令和4年10月の総会以降「街路樹診断士認定講習テキスト改訂特別委員会」を立ち上げ実施しているところです。この「改訂特別委員会」は、街路樹診断協会全体で行いますが、街路樹診断士認定委員会も深く関与して進めています。

現在、令和5年7月の街路樹診断士新規認定講習・試験に間に合うようにテキスト改訂を進めています。同時に、テキストの変更に伴うオンライン講習コンテンツ(動画)の変更も行っていますので大変ですが何とか進めています。

〔活動項目〕

- ① 令和4年度街路樹診断士新規認定オンライン研修実施
- ② 令和4年度街路樹診断士新規認定実地講習・実地試験を各支部にて開催
- ③ 街路樹診断士認定講習テキスト改訂特別委員会への関与
- ④ オンライン研修サイト街路樹診断士認定講習コンテンツ作成に関与
- ⑤ 令和4年度街路樹診断士更新認定オンライン研修の実施
- ⑥ 街路樹診断士新規認定審査(資格厳格化の継続)および事業の実施
- ⑦ 街路樹診断士更新認定審査(資格厳格化の継続)および事業の実施

関東支部

関東支部総会 6月開催予定

関西支部

【研修事業】

技術委員会主催の「切断された根系直径と発根量の関係および切断箇所の処置方法に関する研究」の関西における試験区設置を、古川庭樹園様のご協力により古川庭樹園様の圃場内(大阪府南河内郡河南町^{みなみかわちぐんかなんちょう})にて、4月10日(月)・11日(火)の2日間で行いました。当日の参加者は、技術委員会の石井委員長、高田さん、関西支部の堀内さん、本部の有賀さんはじめ多くの会員の方にご参加いただき無事試験区設置を終えることができました。



九州支部

【診断事業】

2022年度 福岡市街路樹精密診断業務

発注者：一般社団法人 福岡県樹木医会

件名：令和4年度 街路樹調査業務委託(機器調査)

期間：2月～3月

業務概要：精密診断(貫入抵抗測定) 35本、精密診断(弾性波測定) 15断面

日田市 街路樹診断業務

発注者：日田市 土木課

件名：令和4年度 街路樹診断業務

期間：2022年10月～2023年1月

業務概要：樹木調査 146本

日田市 樹木診断業務

発注者：日田市 都市整備課

件名：令和4年度 樹木診断業務

期間：2022年10月～2023年1月

業務概要：樹木調査 21本

虹の松原線 樹木診断業務

発注者：朝日テクノ株式会社

件名：令和4年度 虹の松原線道路橋りょう保全委託(松原診断)

期間：1月～3月

業務概要：樹木調査 159本

大分県立日田三隈高校 樹木診断

発注者：大分県立日田三隈高等学校

件名：桜並木調査・診断業務

期間：3月

業務概要：外観診断 39本、精密診断(貫入抵抗測定) 6断面

【今後の予定】

第14期 九州支部内部研修会(熊本開催) 予定

日 時：6月30日(金)14:00～17:00

場 所：熊本県熊本市

講 義：演題未定 講師 産学官民連携推進調整監 勝木 俊雄 氏
九州支部 発表者 水上 紗智子 氏

参加者：20～30名予定

懇親会：熊本市内予定

第15回 樹木危険度診断講習会(大分開催) 予定

日 時：10月中旬～下旬

場 所：大分県大分市

講 義：演題未定 講師 未定
九州支部 発表者 未定

参加者：50名予定

本部

【常任理事会】

第14期 第2回常任理事会

日 時：2月15日(水) 15:00～17:00

場 所：リアル・リモートハイブリット開催(協会会議室)

【今後の予定】

第3回理事会 6月19日(月)

■編集後記

新型コロナウイルス感染症の位置づけが、2類相当から5類感染症にこの5月8日になりました。これで人が集まってくる講演会や研修会も実施できる、コロナ以前の生活に戻れる、との期待が膨らんでいます。感染者数の増加傾向などまだ予断は許さない面もありますが、皆様、十分に注意をはらいながら積極的な活動を推進していただければと願います。コロナ禍の状況を通じて、様々な変化が社会で起こりました。とりわけデジタルテクノロジー分野の変化は激しく、当協会でも会議や講習会はリモートでの開催が当たり前になりました。変化に対応できなければとの思いで、チャットGPTにこの編集後記を書いてもらおうと駆使しましたが、扱いが未熟なせいか自身の思う文章が出てきませんでした。もっとも街路樹診断協会の取り組みは、そう簡単にデジタル化できない仕事でもあるなあの思いをはせながら、この原稿を記しております。多くの皆様に寄稿いただいたおかげで、GAISHIN NEWS 第15号も充実した内容となりました。デジタル、アナログの両面を駆使しながら、これからも街路樹診断協会の取り組みが、社会や会員の皆様に対して、意義ある活動となることを願います。 (笠松)

一般社団法人 街路樹診断協会

関西支部

〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀1-8-14 (株)日比谷アメニス内
TEL・FAX:06-6444-3990

九州支部

〒808-0124 福岡県北九州市若松区大字安屋900番地11
一般社団法人 北九州緑化協会内
TEL・FAX:093-741-0022

北陸連絡事務所

〒939-8253 富山県富山市新保271 (株)野上緑化内
TEL:076-429-1310 FAX:076-429-4374

台湾連絡事務所

一般社団法人 街路樹診断協会 台湾籌備處
台北市大安區四維路176巷2號1樓
TEL:+886 02-2325-6911